

浸出水貯留量の増減に伴う掘削・搬出の休止と再開

1. 経緯

<p>平成23年5月26日</p> <p>[キャッピングシートの全面敷設開始及び掘削作業の休止]</p>	<p>①浸出水処理施設では、東日本大震災当日の平成23年3月11日から4月21日までの42日間は、薬品調達が困難となったため、前年度と比べて約75%の処理水量(約100㎡/日)で運転し、当該期間中約1,450㎡の処理水量減となった。</p> <p>その後、薬品調達の目処がたったことなどから、同年4月22日には200㎡/日で処理を開始したが、</p> <p>②降水量が例年より多かったことなどから浸出水貯留量が増え続け、貯留可能量17,600㎡の約8割に当たる14,000㎡となった。</p> <p>このことから、今後の梅雨時期以降の降雨量増加に備えて貯留量の減少を図る必要があるため、次の対応策を講じることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既設キャッピングシートの点検・補修を行うとともに、産業廃棄物掘削エリア全面約22,000㎡のキャッピング工事を開始し、掘削作業を休止した。
<p>6月1日</p>	<p>廃棄物の搬出を休止</p>
<p>6月15日</p>	<p>全面キャッピング工事が完了</p>
<p>6月22日</p> <p>[掘削作業及び廃棄物搬出の再開]</p>	<p>6月20日の貯留量が約11,900㎡まで低下したことから過去の降水量データを基に今後の浸出水貯留量を検討したところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①当面はキャッピングの開放面積を制限して掘削作業を実施すること ②まとまった降雨が予想される場合は、開放部分の再キャッピングを実施することにより貯留量の適切な管理が可能と判断されたことから、掘削作業及び廃棄物の搬出を再開した。

2. 今後の対応

現在、開放面積を5,000㎡に制限し掘削を行っているが、今後の降水量及び貯留量の状況を勘案しながら、貯留量の適切な管理のもと段階的に掘削面積を広げることとしている。

貯留量と雨量

貯留可能量 (17,600m³)

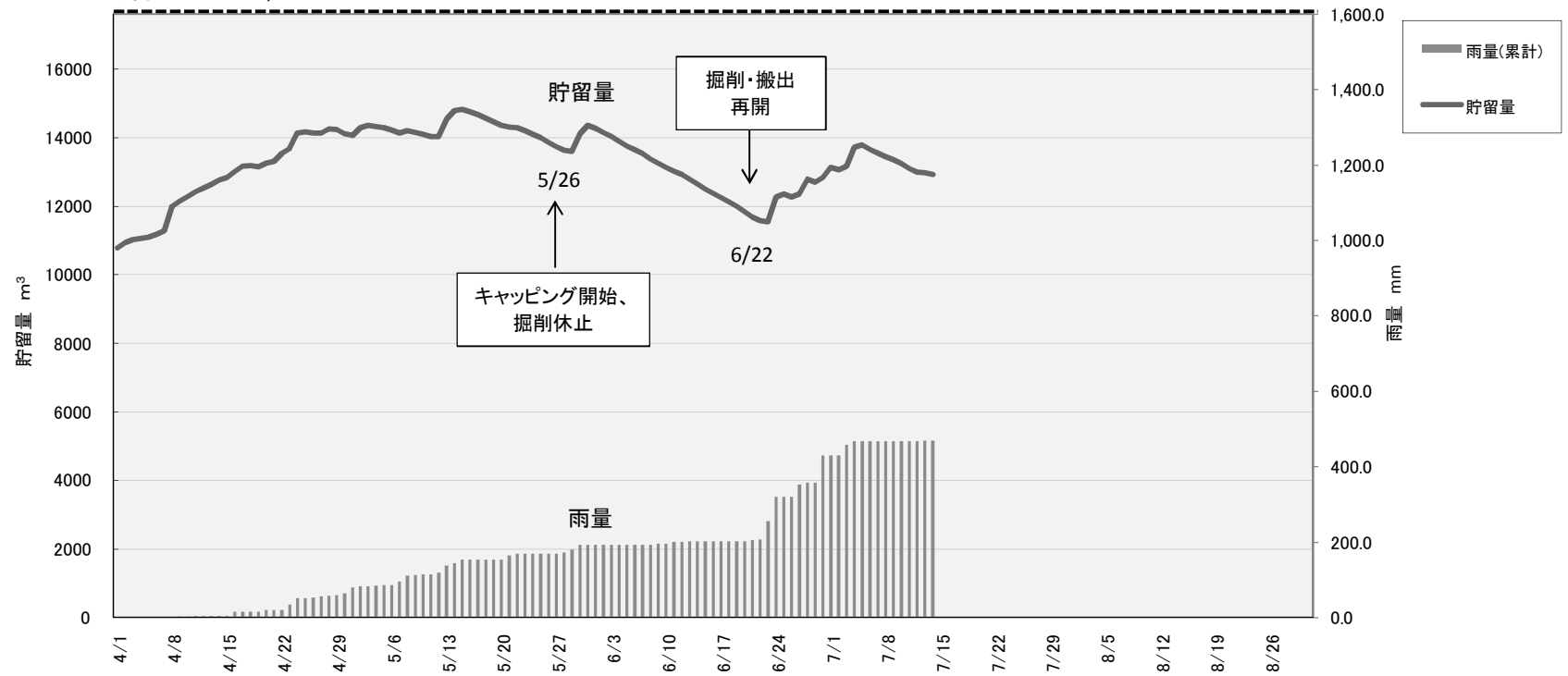




写真1 緊急キャッピング前の掘削エリア 平成23年4月15日撮影（選別ヤード南西端から南西方向を望む）

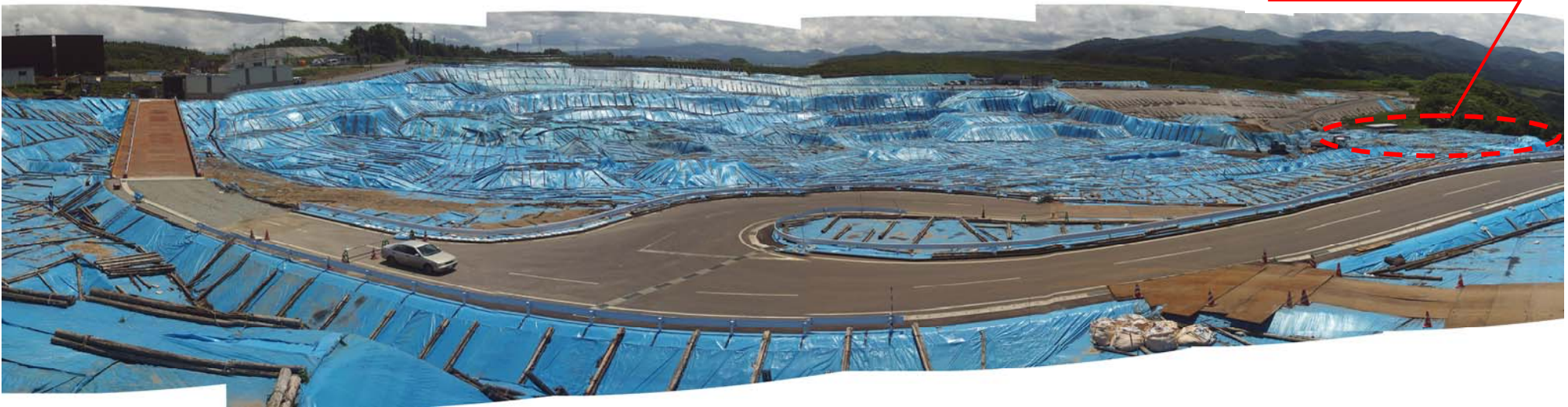


写真2 緊急キャッピング後の掘削エリア 平成23年6月14日撮影（選別ヤード南西端から南西方向を望む）